

令和2年度第2回行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

令和2年9月3日（木） 午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階 第2中ホール

3 出席者

(1) 委員 6名

市島宗典委員（部会長）、高橋利光委員、高橋英明委員、藤田甲之助委員、菊池房江委員、高橋久美子委員

※高橋利光委員は午後2時35分頃、別用により退出

(2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

こども課：今井岳彦課長

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課企画調整係：菊池絵未主査

秘書政策課企画調整係：小田島大介主査

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「子育て支援の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

高橋英明委員：保育士確保だが、現状としては足りていないのか。

今井岳彦課長：足りている所と足りていない所がある。充足している施設もあり、全体的に足りていない訳ではない。ちなみに、市も足りていない。市で保育士養成校をまわっているという話をしたが、法人でも積極的にまわって確保しているところがある。

高橋英明委員：問題というのは、地域にもよるのかもしれないが、施設の体制にあるのか。

今井岳彦課長：地域性もある。郊外だと集まりにくい。あとは、保育士採用は条件採用、初年度は臨時で採用する所があるが、学生はやはり正採用の方を選ぶ。園の気持ちも分かるが、初めから正採用にする園が増えるなど待遇は大分改善されてきている。

高橋英明委員：学童のスペースが狭いということで増築するという話だが、足りていない所だけを行っているという話か。

今井岳彦課長：今のところ足りていない1ヶ所だけを増築する。

高橋英明委員：私の周りでは正直「入れない」「狭い」という話ばかり聞く。

今井岳彦課長：少なくとも一人に対して1.65㎡という基準は満たしている。

菊池房江委員：3歳児の保育料が無償化ということだが、例えば2歳児以下、無償でなくても、働く女性が子どもを預けるための補助や支援が花巻市として今あるか。

今井岳彦課長：女性の就労のためのという視点ではないが、無償化については先程3歳児と言ったが、3歳児未満でも非課税世帯は対象となる。それから市の独自支援としては、多子世帯の保育料の補助ということで、第3子以降の保育料の補助を行っている。当初一番上の年齢が小学校までだったが、平成30年度に改正して、第1子を18歳までに引き上げた。所得によるが、1/2 または全額を補助としている。全ての子が対象ではないが、そのような取組を行っている。

高橋利光委員：達成度は「a」「b」「c」ある。「a」は100%達成したものと思うが、「b」や「c」は何%と基準があるか。

菊池絵未主査：施策の成果指標の達成度は、「a」が100%以上、「b」が90%以上、「c」は90%未満である。事務事業の成果の達成度は、また基準が異なる。

高橋利光委員：各成果指標の達成度が「a」「b」「c」で、達成度が「C」になっている。普通に考えれば「B」ではないかと感じるが、総合的な達成度は90%以下と考えてよいのか。

菊池絵未主査：要領に定めているが、複数成果指標がある時は、その達成度の組み合わせにより達成度を決めている。

高橋利光委員：もう一つ。成果指標の中に、施設整備については十分整備をしたから待機児童は減少したとある。ただ、保育士確保が追い付かないで、待機児童が発生している、この文章の内容についての整合性はこれでよいものなのか。

今井岳彦課長：まだ解消されていないために、このような表現とした。間に補足する文章があるとよいかもしれない。

藤田甲之助委員：施策評価シートを拝見する上で気になっているのが、ステークホルダーというか、民や教育、色々な方々と目的達成するために組んでいる部分があると思う。外部協力者の方々やステークホルダーとの連携などは、こういうフォーマットには載らないものなのか確認させていただきたい。

今井岳彦課長：事業として行っていれば、当然事業として載るが、実際に事業で見えない連携を行っている部分もある。ここでは事業の部分で掲載させていただいている。

藤田甲之助委員：分かりました。それと、このような問題は他もそうだと思うが、行政だけで抱える問題ではもちろんないと思っていて、組んだ人達のバランスや、もう少し違う人達と組んでこのような情報をもらったら別のことができるのではないか、など事業の一つの評価としてあってもよいのかなと感じた。もう一つ、現状と課題の部分だが、箇条書きに書いていてわかりやすいが、「今マイナスだがプラスにしていく必要がある」という書き方と、「今は悪くないがもっと伸ばしていくことが大事」と二つの書き方があると思っている。今回悲観的な書き方をされていて、事業ありきというか、こういうことをやっていくものなので、という話があったので、そういうものだということになっているかもしれないが、花巻で取り組んでいてすごく良いことだってあるし、もっと伸ばさなければいけないことがあると思うので、その現状と課題の中にもう少し他になか

ったのかを確認させていただきたい。

今井岳彦課長:そういう書き方もあるが、少なくともこの施策については、まず負の部分のなんとかしたいという部分がある。限りがあるので全部載せることはできないが、最低限必要なサービスが受けられているかと、ニーズに応えられているか、二つのポイントがあると思う。今は待機児童を解消することが大事であり、その先に次のステップがあると思う。子育て支援は行政だけではなく、幅広い協力ができないことなので、少なくとも今回はそこを底上げするということと、紙面に限りがあるのでこのような記載になっている。

藤田甲之助委員:分かりました。次に、「2 成果指標」について、%の単位の分母分子は公表しないものか。何人に配布してどれだけ答えてなど、人数の方が見えると思う。

今井岳彦課長:公表してもかまわない部分なので、記載するようにしたい。成果指標の2つ目について、対象は30施設。3つのサービスがあるので、分母 $30 \times 3 = 90$ に対して、数をかけると60%となる。1つ目の成果指標の出典である花巻市3歳児アンケートについては、「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」などの方に入れるようにしたい。

菊池絵未主査:補足だが、現状と課題の記載は、第2期中期プランの施策の現状と課題を書き出して、そこの整理を元に毎年度の評価をしているという部分になる。

高橋久美子委員:就学援助について、細かい資料を見ると、援助を辞退している人がいる。必要があって申請していると思うが、それでも辞退する人は何人位いるか。

今井岳彦課長:そこは申し訳ないが数字をおさえていないため、担当課に確認したい。

高橋久美子委員:申請してもなかなか通らないという話も聞く。今、子どもの貧困などと言われていて、子どもの貧困はつまり親の貧困な訳だが、ひとり親家庭が増えて、親が朝も昼も夜も働いて、それでもなかなか子育てできないような状況があるという話もよく聞く。そういう場合に親達の就労支援をしているということで、それは素晴らしいことだと思うが、実際に市として将来の子ども達をいかに健やかに育てるかということに、予算に重点をおいていただければと思う。

今井岳彦課長:貧困対策は多岐にわたる。どういう事業が効果的なのか、教育委員会だけでなく福祉など担当課で連携して進めないといけないと感じる。

高橋久美子委員:学校給食費も払えない人も増えているという話もあって、給食費の無償化という話もあるが。

今井岳彦課長:就学援助ではそういう部分も該当になるが、それでいいのかということもある。例えば、保育料が無償化した3歳児以上は、副食費は実費負担になるが、国基準で年収360万円以下の方、第3子以降の方は免除になる。一方で、年収360万円の基準も高いという考え方もある。様々な子育て支援の切り口があるので、一概にこれがよいとは言えない。ちなみに学童保育料については、市で統一して、ひとり親家庭については、第1子以降の保育料は1/2、多子世帯の場合、第2子以降は1/4などにして負担軽減を進めている。将来を担う子どもたちのことなので、大事な視点だと思う。逆に良いアイデアがあればいただきたい。

市島宗典委員:成果指標がなぜこの指標なのか。例えば、保育士の確保に取り組む必要があ

るということだが、成果指標は待機児童数になっている。細かい資料を見ても最終的には保育士になる人への補助が多数あるが、待機児童にしている理由はあるか。

今井岳彦課長：保育士を確保する事業は、待機児童を解消することを目的に行っている。待機児童を生まないためには、入れる施設と預かる保育士がいなければ解消しない。まずは待機児童を解消する事業という考え方で取り組んでいる。

市島宗典委員：分かりました。次に、成果指標の二つ目は、目標値がずっと60%とたてられている。実績値を見ると6割を上回っていたりするが、逆に40%は実施不可能でいいのか。

今井岳彦課長：大変難しい。理想は100だと思う。いわゆる延長保育は全施設で行っている。ただ、その他の一時預かり保育や体調不良児保育は、別に対応する保育士や看護師が必要になる。理想は100だが、ただでさえ保育士が少ない上に、看護師も不足している。体調不良児保育は専用のスペースも必要だが、現実的にスペースを作ることができるかということもある。数字の上限は整備した施設がやるかやらないかで変わってくる。ここは確保したいという意味での数字である。

市島宗典委員：今質問したのは、実績値がそれにもあるにも関わらず、それが上がらない印象に見受けられたためである。

今井岳彦課長：現実的にできるかといえば、なかなか簡単ではない。

高橋英明委員：全て人不足か。

今井岳彦課長：人と、ハードもである。例えば、体調不良児だと専用スペースを整備する必要がある。そのハードルが高い。サービスはやはり人が大きい。

高橋英明委員：学生に声かけを行っているというのは、花巻だけの学生か。

今井岳彦課長：今年度はコロナで遅れはあるが、通常は公立園に県外からも学生が実習にくる。花巻を選んだということは、花巻に脈があると考えて積極的に実習生に声かけを行っている。また、保育力充実支援事業は法人園しか対象にならない事業。公立もだが、法人もしっかりと受け入れてもらいたいので、実習に来た人皆に声をかけている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について

高橋英明委員：虐待のことに触れなかったように感じる。市でも何件か件数があると思うが。

市島宗典委員：現状と課題にあっても、その点が不足している部分があるということ。前年度の評価があまりないことからか。

菊池絵未委員：重点的に進めるものを待機児童の解消としていることで、それを中心とした記載になっていることはあるかもしれない。

市島宗典委員：現状と課題とは連動しないことか。

菊池絵未委員：現状と課題が、総合計画からの全体的な現状と課題になっているため、その中の単年度の振り返りということで部分的になっていると思われる。

藤田甲之助委員：そうであるならば現状と課題に書くことはない。現状と課題に書いた限りはそれを解決するための事業になってないと。目的があって手法があって、その評価があってPDCAのサイクルがまわるのでしょうから、書かない方がよいし見やすい。

市島宗典委員：その部分を検証シートに盛り込みたい。

●「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

藤田甲之助委員：先程高橋利光委員からご質問があったが、達成度の区分が分かりづらいというのは、それで解決できてしまうから載せないということによいか。ルールはここに書いて載せることではないと思うが。

菊池絵未主査：施策評価シートの記載要領を定めて達成度を出している。

市島宗典委員：「●シート記載内容全般について」という項目に書くことはできる。

高橋英明委員：ちょっと分かりづらい。

藤田甲之助委員：先程と同じで、ふれているところと、ふれていないところがある。

菊池絵未主査：シート全般だけではなく、中身の方も見ていただきたい。分析が記載されている内容で納得できるものかというところもあるかと思う。

高橋久美子委員：この施策が「C」評価の訳は、「待機児童は減少したが、保育士確保が追い付かず待機児童が発生している」と書いているが、その訳は、市として何が原因と考えているのか。例えば給料面。資格を持っていてももっと良い給料の方に行く人は多いと聞く。人の命を預かる大事な仕事の割にはお手当が少ない。朝から遅くまで働いていても収入がなくて大変だという話も聞く。保育士確保が必要と思うのであれば、援助も必要なのではないかと思う。

市島宗典委員：保育士確保が追い付いていないという部分の要因分析が足りないということですね。他にもお気づきの点があれば、後でもよいのでお答えいただきたい。

●「4 施策を構成する事務事業の検証」について

市島宗典委員：事務局に確認したいが、計画値や目的値があって、事務事業評価シート、事業説明資料を見ると、目標値と実績値については書いてあるが、なぜこれが目標値になっているかというのは、説明を聞かないとわからないということか。様式の中で記載されている箇所がないように思う。

菊池絵未主査：事務事業評価シートの「成果指標の達成度の要因分析」の中に、定めている理由は確かにないが、設定しない場合の理由は書くので、そこに補足はある。しかし、なぜこれにしているかという部分は、事務事業評価であれば「意図」に対して定めている部分になると思うが、確かに書いてはいない。

●「5 施策の総合的な評価」について

藤田甲之助委員：(施策主管課による説明時、令和2年9月1日時点での待機児童数が2名と説明したことに対し)待機児童2人はすごい。どんどん書いた方がよいと思う。

菊池房江委員：昨年度は64名と多かったと聞いた。前向きに取り組んだ成果としてあった方がよいかと。

藤田甲之助委員：ただし、今年度の話で、公表されていない数字である。

菊池絵未主査：施策評価シートは令和元年度の振り返りなので、来年度の評価時には書けるかと思う。

菊池房江委員：学童の施設の拡充は今年1箇所と聞いた。子ども達を大事に安全に預かる場所になると思うので、どのような形で拡充するか、例えば石鳥谷だと学校の施設の中の空き教室を学童にしている所もある。新しく建てれば一番良いのだと思うが、既存の施設で考えられる所もあるかと思う。あとは学校から遠くない場所で既存の建物で要件を満たす場所を使うやり方も、これから大事な要素になるかと思う。

市島宗典委員：例えば施設の増築を実施するという事か。

菊池房江委員：1箇所だが、そのようなやり方をすれば2箇所、3箇所と考えられる方法はないかということ。

高橋英明委員：もう少し細かい数字がシートあるとよい。施設もどこを計画しているかなどあるとわかりやすい。「今後の方向性」の4つ目の記載も、例えばどこに声がけをして、どのように周知できるのかなど、もう少し細かく載せた方がよい。

市島宗典委員：「今後の方向性」が次年度の「前年度評価時の今後の方向性」に来るので、きちんと書いておかないといけないのはおっしゃるとおり。これはこの委員会でピックアップされないと、このまま来年度の所に反映されてくるのか。それとも市役所の中で何かあるのか。

菊池絵未主査：外部評価を経て、さらにこのシートを直すということではない。来年評価を行う時に、そこを踏まえて作成することになる。

市島宗典委員：そうすると、ここでの声が入らない限りは中でまわっていくことになるか。

菊池絵未主査：外部評価を受けて直す場合はさらに分かりやすくなると思うが、今そのようにはなっていない。

市島宗典委員：ワンクッションあれば、次年度から書き方を変えてもらうということがあるが、外部評価で選ばれない施策は中だけで翌年まわるということか。

菊池絵未主査：おっしゃるとおりである。外部評価はサンプル的に選んだものなので、今回の評価を報告書としてまとめたものを庁内でも共有させていただき、分かりづらいなど指摘で共通しているところがあれば、それを改善していくことにはつながると思う。

●シート記載内容全般について

市島宗典委員：この施策での意見とともに、これ以外の施策にも反映することができるので、本項目で書けるとよい。全体的につけ加えておかれたいことがあればお聞きしたい。

高橋久美子委員：単純な話だが、成果が「C」だった項目は、来年度はここを重点的に行うということか。

菊池絵未主査：評価を上げるための対策は事務事業のレベルで考えていくことだと思うが、「C」に限らず事務事業全体として見直しをして、必要なものは改善を図っていくことになる。

高橋久美子委員：成果が上がるような方法を考えていくということか。

菊池絵未主査：事務事業の成果が「C」のものは必ず検証するようお願いをしているが、本来であれば「A」評価や「B」評価のものも改善の必要があれば書くようお願いしている。しかし、どうしても成果が低いものだけ検証しているように見える。

高橋久美子委員：目標が高すぎて「C」と出ることか、自分達のやり方がうまくなくて「C」

と出るのか、色んな考え方があると思うが、「C」と出たから目標を低くしようというのもうまくないと思う。そこが評価する上で難しいところ。

菊池絵未主査：事務事業だと施策より具体的なものになるので、成果指標も見直すことがあるが、そもそも成果指標とは考えづらいものを設定していたことで見直すものもある。

高橋久美子委員：「C」という評価を出すのは勇気がいると思うが、正直に評価をしているのだと思う。

市島宗典委員：成果指標の妥当性を検討するチャンスはあるのか。

菊池絵未主査：事務事業に関しては年度で見直すことができるが、施策の成果指標は中期プランの計画期間のタイミングである。今第3期中期プランを作っているが、成果指標も含めて最終的な見直しをしている。

市島宗典委員：内部で行っているということか。今日も例えば%でいいのかなど、成果指標に関する議論が出てくる。評価の評価は分かるが、成果指標が妥当なのかそうでないのか、設定の仕方の検討の余地があるのではないか。

菊池絵未主査：%にするのも、実数にすると時代の状況の中で変わってしまうものもあるので、割合で正当性を見ていくやり方もあり、他の施策でも見直しをしているところである。計画期間の中では成果指標が決まったらそれが前提で進まざるを得ない。

市島宗典委員：それは施策だけでなく、事務事業も同じことが言えるのではないかと思う。来週次の回が予定されているため、施策評価検証シートをまとめ、次回の時にみなさんにみていただくことで進めさせていただきたい。